

ここからつなげる交差点の環

<作品概要>

信号待ちの2分間で周りを見渡すと、スマートフォンで音楽を聞いている人など、待ち時間を個々の時間として過ごす姿が目立つ。この時間を皆で共有し、そこに集う人々のつながりを生み出すことができれば、通行人の心ももっと豊かになると思い、幹線道路の交差点を私の空き地として設定した。

また、私が住む愛知県は外国人居住者が多く、私自身も国際色豊かな学校生活を送ってきたため、世界とのつながりを持たせる工夫を配した。

1. 私を取り巻く環境

私が通う学校は、外国籍の先生や生徒が多く在籍しており、自分のクラスメイトにもロシアやパキスタンなど様々な国籍の生徒がいます。

また、私の生活する愛知県は在留外国人の数が多くあり、20万人を超える外国人が生活しており、この人数は東京、大阪に次ぎ全国3位です(表1. 法務省『在留外国人統計』2014年12月)。これらの視点で考えると、私と外国人との関わりは同年代と比べるととても深いのではないかと思います。そのような環境で生活しているおかげか、私を始め、私たちの学校には国籍によるした顔をして生活しています。この私の立場を踏まえて、私が考える「人々が豊かになる」とは、国籍や年齢を問わず、様々な人々が関わりを持ち、コミュニケーションを築いていくことだと考えました。

表1.

都道府県	人数
東京	430,658
大阪	204,347
愛知	200,673
神奈川	171,258
総数(全県)	2,121,831

『在留外国人統計』(2014年12月版)より必要箇所をまとめた。(法務省HP)

2. 私が見つけた空き地

先日、名古屋市の繁華街、幹線道路の交差点で信号待ちをしている時に、ふと周りの人々を眺めると、以下のことに気がつきました。

- ・様々な国の人々が様々な目的に向けて、同じ場所で信号待ちをしている。
- ・自分を含めたほとんどの人が、スマートフォンを使用し音楽を聴いているなど、待っている時間を自分一人ですごしている。

私はこの光景を通して、「同じ信号を待つ約2分間を、もっと有意義にコミュニケーションを築くことはできないか」と疑問を持ちました。せっかく同じ場

所に様々な人が集まったのだから、信号を待つという行為自体は変えずに、2分間同じ場所を共有している人々の縁を深めることができれば、街の特徴を活かしつつ、人々がより豊かに生活できるのではないかと思います。幹線道路の交差点を私の「空き地」として設定しました。



<混雑時には多くの人が信号待ちをする交差点>

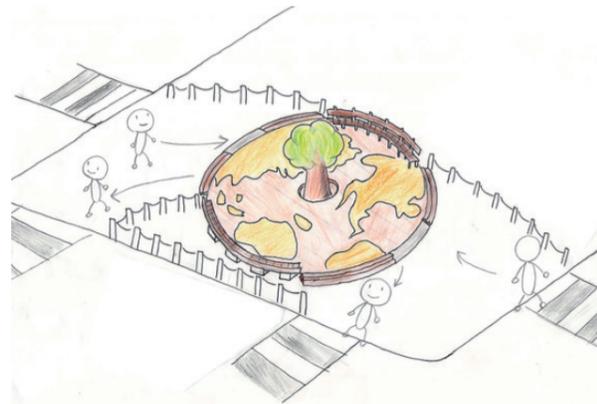
3. 空き地利用の特徴

グローバルな空き地活用を考えた時に、意識したのは「人々の動線」と「心の距離の縮まり」です。空き地の中央に地球を模したウッドスペースを設置し、その中心に交流のシンボルとなる木を配置しました。

加えて、周囲にベンチを置くことで、2分間の「個々の時間」を「そこに集う人々の時間」として活用できるように工夫しています。

3-1. 地球が表す広がり

地球を模したウッドスペースを設置し、各大陸をその土地原産の木材を使用することで、様々な国と関わりの上に日々の生活が成り立っている意識を持ち、そこに集う人々のコミュニケーションの起点となり得ると考えました。また、地域の特徴を生かして様々な国の人とコミュニケーションを築けるようにすることでコミュニケーションの幅を広げより人々を豊かにすることができると考えます。地球は日本を中心に描き、空き地で築いた人々のつながりが様々な目的地や、世界に広がりを持つ様子を表現しています。



3-2. 大樹に込めた願い

私の「空き地」の中心には、その象徴として大樹を据えています。大樹は人々の交流の中心であると同時に、人々を見守る存在です。

私は高校2年次に、国際ボランティア研修でフィリピンを訪れました。現地では、路上で生活する子どもたちや、ゴミ山から金属を拾い家計を支える子どもたちと交流しました。彼らは、劣悪な生活環境であっても、仲間同士で楽

しみを見つけて生活していました。現地で人気のスポーツはバスケットボールで、私もボール1つで共に汗を流し、疲れたら木陰でおしゃべりをして休憩するという時間を共有し、自然と調和して生活する大切さを彼らから学びました。今回の私の「空き地」には、都会で生活する人々にも、自然との調和を少しでも意識してほしいという願いを込めています。



<現地の子どもたちとバスケで交流！>

3-3. ベンチと動線

ベンチはウッドスペースの輪郭に沿って、曲線を描くように設置する事で、通行する人の邪魔になる事なく、ウッドスペースの地球を見守るように利用できます。

また、利用者が中心部を向いて座ることで、通行人との目線が合いやすく、コミュニケーションの起点となることを期待しています。]]人と人、木や地面に描かれた地球、地域の木材で作られた大陸との距離が縮まる事でそれぞれに関心を向ける事ができ、つながりや、環を強く意識させる事ができると考えました。さらにベンチを区切らず大きく長く作る事で隣に座る人との壁をなくし、気軽に話せるような環境を意図しています。



4. まとめ

私たちの日常には、ちょっとした所に「時間の共有」が隠れています。交差点で待つ2分間を、音楽を聴いたり、スマートフォンで遠い友人とコミュニケーションをとる時間にあてることも有意義かもしれません。しかしその交差点に集う人々が再度そこに集う確率は、途方もなく低いのではないのでしょうか。私が今回考えた空き地では、2分間から始まる出会いが国籍を超えて交流を生み出すかもしれません。タイトルの「ここから」という言葉は、起点となる場所を表すだけでなく、一人ひとりから出会いを生み出す「個々から」という意味合いを込めています。この空き地を通じて、よりたくさんのつながりが生まれ、人々の生活が豊かになると信じています。